

上=オープンしたEVショールーム
下=テープカットする大熊社長(中央)ら



マルシメ

同日、大熊社長はじめ杉浦康夫同市副市長、取引先関係者ら約50人が出席して盛大なオープニングセレモニーを行った。
冒頭、大熊社長は

「今後は自動車の枠組みにとられず、多様な顧客ニーズに 대응する必要があります。EVの販売もその一つ。当社は小型の商用EVを主軸に展開する考えで、ショールームで魅力を実感してもらえれば」とあいさつした。
続いて大熊社長らがテープカットした後、出席者らはEVショールームで車両などを見学。また特設会場で実際に1人乗りの小型EVを試乗するなどしてその性能にふれた。
同社が扱うのは、国内の商用EVメーカー「HW ELECTRO」の小型商用EV「ELEMOR」や1人乗り用ミニEV「NINA」など。同メーカーの特約店として車両を販売するだけ

でなく、メンテナンスや車検、充電設備の施工なども請け負う。
EVショールームのオープンにともない、今後取引先で新規事業をアピールしていくほか、直営SSにチャシヤパンフレットを設置するなどしてEV販売をPRし、顧客獲得に努めるとしている。

モビリティ事業強化

EV販売本格始動

ショールームオープン

【豊橋市=愛知】マルシメ（ENEOS系=愛知県豊橋市・大熊康丈社長）は17日、本社駐車場の一角にEV（電気自動車）のショールームをオープンした。モビリティ事業の強化に向けた新たな試みで、脱炭素化の潮流など踏まえ、EV販売を本格的に開始した。

東海・北陸版

「今後は自動車の枠組みにとられず、多様な顧客ニーズに 対応する必要があります。EVの販売もその一つ。当社は小型の商用EVを主軸に展開する考えで、ショールームで魅力を実感してもらえれば」とあいさつした。 続いて大熊社長らがテープカットした後、出席者らはEVショールームで車両などを見学。また特設会場で実際に1人乗りの小型EVを試乗するなどしてその性能にふれた。同社が扱うのは、国内の商用EVメーカー「HW ELECTRO」の小型商用EV「ELEMOR」や1人乗り用ミニEV「NINA」など。同メーカーの特約店として車両を販売するだけ